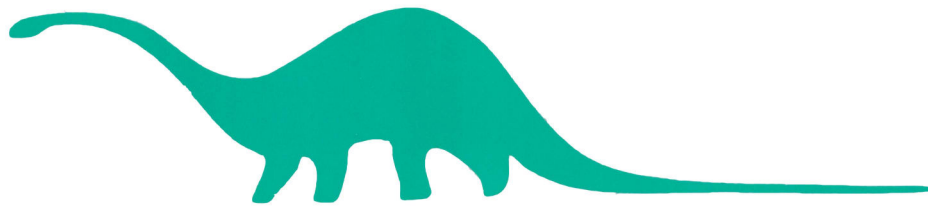


C.L. information

～Vol.9(2月号)2012～



今月号の特集： 早めの防虫・防鼠対策
先月の食中毒情報

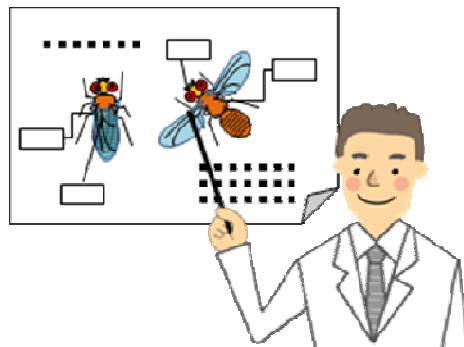
株式会社コントロールラボ
<http://controllabo.co.jp>

早めの防虫・防鼠対策

食品関連をはじめとして、医療・介護・ホテル・サービスなど、様々な業界で害虫やネズミは大きな問題になります。

害虫やネズミの被害と言えば、暖くなる春から目立ち始めます。しかし、被害を抑える対策は、冬の寒い時期からでも可能です。

今回の C.L.information では、害虫やネズミの被害が出始める前に、冬の時期からできる対策についてお話をさせていただきます。



害虫・ネズミの種類について

屋内で発生する害虫

害虫の種類によって発生源は異なりますが、生育に十分な温度とエサがあり、日頃目が届き難く、あまり掃除が行われない環境が発生源や誘引源になります。



屋内で発生する害虫	
小麦粉製品、穀類、豆類、乾物など	シバンムシ、ノシメダラメイガ、ノコギリヒラタムシなど
乾物した動物質(乾物、虫の死骸)	カツオブシムシ、ヒョウホンムシなど
食品残渣、生ゴミなど	ノミバエ、ショウジョウバエ、フンコバエなど
カビや微細な有機物	チャタテムシ、ヒメマキムシなど
配管内の汚泥、水場の有機ゴミ	チョウバエ、ニセケバエなど
屋内の設備、機械の内部で繁殖	チャバネゴキブリ、トコジラミなど

※上記のカテゴリーに分類できない種類も多数います。

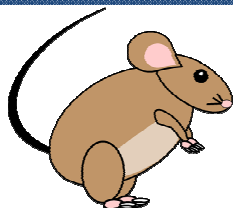
屋外から侵入する害虫

屋外から侵入する害虫は、水系環境(河川、湖沼、水路など)・植込み・林地・田畑を発生源にし、屋内からの光や臭気などに誘引されます。また、侵入後の屋内環境においても、発生に適した環境であれば定着し、そして屋内で繁殖することがあります。




屋外から侵入する害虫	
水系(河川、湖沼、水路、水溜りなど)	ユスリカ、ヌカカ、トビケラ、カゲロウなど
植込みや田畑、植物、腐植物など	クロバネキノコバエ、タマバエ、アブラムシなど
地面を徘徊して侵入	ゴミムシ、ハサミムシ、クモ、ムカデなど
屋外から侵入して定着	アリ、クロゴキブリなど

ネズミの仲間



ネズミの仲間は全世界に1,000種類以上確認されています。そのうち、屋内で見られるネズミについては「イエネズミ」という呼ばれ方がされ、主に3種類のネズミが有名です。それぞれの種類によって、生息場所や被害の種類も異なります。この種類を見極めることが、ネズミ対策の重要なポイントになります。

イエネズミ3種類

<p>ドブネズミ</p>	<p>名前の通り水気のある場所を好み、3種類の中で最も大型のネズミです。泳ぎは達者ですが、配管や柱を登るのは苦手です。エサは植物質よりも動物質を好みます。</p>	 <p>(C) ねずみ駆除協議会</p> <p>イエネズミ3種類の大きさ比較 上からドブネズミ、クマネズミ、ハツカネズミ</p>
<p>クマネズミ</p>	<p>名前に「クマ」とついていますますが、ドブネズミより一回り小さい体つきです。垂直方向の移動を得意とし、天井裏や柱によく登ります。エサは動物質よりも植物質を好む傾向があります。</p>	
<p>ハツカネズミ</p>	<p>3種類の中では最も小型のネズミです。成長が早く、繁殖力が非常に高い種類です。</p>	

清掃による防虫・防鼠

害虫への最も有効な対策の一つに清掃が挙げられます。清掃によって、先にも述べた害虫の発生源や誘引源を取り除いてしまうのです。ここでは、害虫対策としてどのような清掃が有効なのか、害虫の種類ごとにポイントを示していきたいと思います。

貯穀害虫・食品害虫

貯穀害虫は、米や小麦粉といった貯蔵されている穀類を発生源とする害虫で、部屋の隅にできた粉だまりが発生源となります。対策としては、什器の下などもやり残しが無いように掃き掃除と拭き掃除を隅から隅まで行き、粉だまりを作らない事が有効です。食品害虫の仲間としてはチャタテムシが挙げられ、主な発生源はカビです。対策としてはカビを生やさないように、結露が生じやすい場所や濡れたままの状態になりやすい場所をこまめに乾いた布で拭取ることが有効です。

衛生害虫

衛生害虫は人や動物の病気に関係する害虫を指し、ゴキブリやハエの仲間が挙げられます。ゴキブリの対策としては過去のC.L.information(Vol.3)をご参照ください。ハエの仲間では特に屋内で問題になるのは、チョウバエやニセケバエです。どちらも排水溝や水周りに生じる汚泥などの有機物ゴミが発生源となるため、対策としてこれらの有機物の除去が有効です。

ネズミ対策

ドブネズミ・クマネズミ・ハツカネズミの3種は、種によって好み異なる傾向にはありますが、いずれも雑食性であるため、侵入場所の床や天井裏に栄養源となるものがあると、それを足掛かりとして繁殖してしまいます。そのため、定着を防ぐという観点から、昆虫の死骸・穀類の破片・生ゴミといった栄養源となり得るものを、掃き掃除などによって徹底的に取り除く必要があります。

防虫・防鼠のための設備

虫やネズミの侵入対策には、建物の構造や設備など物理的な要因も重要です。新たに施設を建てる場合には、あらかじめ防虫・防鼠に適した構造を採用することができます。しかし、既存の施設でもちょっとした工夫で虫やネズミの侵入を防ぐ対策を講じることができます。

虫の侵入を防ぐ！！

虫を誘引する原因として「光」が挙げられます。人間が見ることのできる光の波長は、360nm～830nmの間です。これに対して、虫は一般的に 300nm～650nm の光を感知します。これは、紫色から青色の光に相当し、虫が見える領域は紫外線の領域ということになります。夜、蛍光灯に虫が吸い寄せられるように集まってくるのは、蛍光灯が紫外線を使って光を出しているからです。そこで、虫には感知されない波長の照明(黄色)を用いることで虫の誘引を防止することができます。また、侵入経路を塞いでしまうことも有効です。流し台のホースと配管の隙間、破損した網戸などのわずかな隙間も虫の侵入経路になるため、ホースと配管の隙間を市販のパテなどで塞ぐことや、網戸の修理または取り換えが重要です。

ネズミの侵入を防ぐ！！

ネズミの侵入を防ぐためには、侵入口の封鎖が重要な対策になります。特に排水口・通風口のような水や空気の出入口は、目立たない場所にあるだけにネズミの侵入口になりやすい場所です。排水口に設置されている金網などは、ネズミによって簡単に持ち上げられてしまうので、内部を針金などで固定する対策が有効です。また、壁や天井の破損によって生じた隙間も鼠の侵入を招く可能性があります。破損個所の補修や、天井と配管の間に隙間があれば埋めるなどして外部からの侵入を防ぎ、屋内での被害を防止しましょう。

今後、弊社ではノロウイルス検査以外にも、検便検査や品種鑑別検査・異物検査にも順次 PCR 法を導入していく予定です。ご期待ください

先月の食中毒情報

先月から引き続きノロウイルスを原因とした食中毒が多く発生しました。感染者が70名以上になる大規模な事例も複数ありました。先月と比べて減少傾向にあるものの、昨年同時期の倍以上の感染者数が報告されています。ノロウイルスは非常に感染力が強く、一人の感染者から大規模食中毒に発展してしまう可能性があります。しっかりとした衛生意識のもと、日常的な予防対策と、定期的な検査による感染者の発見をもって、感染の発生を未然に防いでいくことが非常に重要です。

全国食中毒発生状況 (1/15～2/14 新聞発表分)

原因物質	事例	感染者数
ノロウイルス	20	668
カンピロバクター	5	35
ウェルシュ菌	1	27
ヒスタミン	1	19
クドア セブテンpunkタータ	1	7
不明・その他	4	52

株式会社コントロールラボ

本社 〒651-1211 神戸市北区小倉台 7丁目1-7 TEL:078-582-3575 FAX:078-582-3576

阪神事業部 〒658-0026 神戸市東灘区魚崎西町 2丁目4-15 TEL:078-858-6801 FAX:078-858-6802

フリーダイヤル

☎0120-540-643

URL <http://controllabo.co.jp>



株式会社コントロールラボ



エムテック衛生検査所